

要素訓練結果報告の概要【濃縮事業部】

1．訓練の目的

本訓練は、六フッ化ウラン漏えい事象に対する資機材の取り扱い、応急処置方法に関する能力の習得・向上を目的とする。

2．実施日

2014年2月18日(火)および2月20日(木)
(訓練ごとの実施日は、「添付資料」参照。)

3．実施場所

ウラン濃縮工場

4．実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練ごとに実施責任者を設け、実施担当者が訓練を行う。

(2) 評価体制

定められた手順書等に基づき、資機材の取り扱い、応急処置が実施できるかを実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

5．原子力災害想定の概要

液化中の均質槽の配管および建屋扉が破損し、破損箇所から六フッ化ウランが管理区域内および管理区域外(屋外)へ漏えいすることを想定する。

6．防災訓練の項目

要素訓練

7．防災訓練の内容

設備応急訓練

8．訓練結果の概要

(1) 屋内シャッター閉止および均質槽配管閉止訓練(屋内)

必要な安全装備(全面マスク、アノラック型防護具等)を装着し現場状況確認を行い、六フッ化ウランの建屋内(管理区域内)の漏えい拡大を防止するため、均質槽が設置されている部屋(2号発回均質室)のシャッターについて、ビニールシート等で養生を行い、現場指揮所を設置した。

現場指揮所の指揮のもと、必要な安全装備(呼吸用ボンベ一体型マスク、化学防護服等)を装着し、均質槽からの漏えい状況を確認した。また、確認結果を

踏まえ対策方法を検討し、均質槽配管（配管カバー）について、ビニールシート等で養生を行った。

（２）建屋扉閉止訓練(屋外)

必要な安全装備（全面マスク、アノラック型防護具等）を装着し、六フッ化ウランの建屋外（管理区域外）への漏えいを防止するため、建屋扉について、ビニールシート等で養生を行った。

9．訓練の評価

六フッ化ウラン漏えい対処について、手順書どおり実施できることを確認した。訓練ごとの評価結果および今後に向けた改善点は添付資料のとおり。

以上

添付資料
要素訓練の概要

要素訓練の概要

訓練項目	実施日	実施体制 実施責任者 実施担当者	参加人数	実施結果	今後に向けた改善点
(1) 屋内シャッター閉止および均質槽配管閉止(屋内)	2014/2/18 2014/2/20	設備応急班長 設備応急班員、 放射線管理班員	20名 (当社社員)	・必要な安全装備を確実に装着し、六フッ化ウランの漏えい対処ができた。	・繰り返し訓練を行い、習熟度を高めていく。
(2) 建屋扉閉止訓練(屋外)			7名 (当社社員)		